

- ウォークコース
- 万葉故地
- 国道
- 神社
- 南海道
- 道標
- 県道
- 神社
- 灌漑用水路
- 城跡
- 駅
- 学校
- 公園 緑地
- 見どころ

0 500m



- 友ヶ島行場五所の額
- 虎島堡壘跡
- 観念窟
- 虎島
- 関伽井
- 序品窟
- 神島
- 剣池
- 深蛇池
- 友ヶ島第5砲台跡
- 友ヶ島第4砲台跡
- 友ヶ島第3砲台跡
- 友ヶ島第2砲台跡
- 友ヶ島第1砲台跡
- 友ヶ島燈台
- 妹が島・形見の浦

友ヶ島遠望

休暇村や深山第1砲台から加太の瀬戸を挟んで地ノ島、沖ノ島を、遠くには由良ノ瀬戸を挟み淡路島を眺望する。万葉・形見の浦を満喫できる。

淡島神社

もとは神功皇后伝承をもつ友ヶ島の神島に祀られていて仁徳朝に現地に遷されたという。延喜式神名帳の加太神社であろう。離流し、針供養で参拝者が多い。

友ヶ島第3砲台跡

紀淡海峡防備のため、明治22年以降、沖ノ島に5砲台、虎島に1堡壘が築造された。最大規模を誇る第3砲台は28cm榴弾砲8門を備えた。

MAP A 加太小学校周辺

- 旧加太警察署庁舎
- 常行寺の柏楨
- 西消防署加太出張所
- 加太中学校
- 加太小学校
- 加太郵便局
- 光源寺
- 加太春日神社
- 稲念寺
- 阿弥陀寺
- 新町温泉
- 加太駅

コース 6 加太浦八景と訪ねる

南海道は紀伊国を出て、四国へ続いていきます。加太は、淡路・四国への渡津(わたんど)であり、葛城修験の起点でもあります。主に淡島街道を通り、一部県道7号を歩きます。海に臨む加太の景観と名所・旧跡などの歴史スポット『加太浦八景』を楽しめます。

出発

南海八幡前駅 1.6km 32分

木本八幡神社 2.6km 52分

射箭頭八幡神社 2.0km 40分

塩地藏堂跡 6.0km 120分

南海加太駅 2.7km 54分

到着

大崎

到着

大崎

賀太駅家推定地

加太海岸

形見の浦(二説)

加太海水浴場

森林公園

加太

淡島神社

加太砲台跡

田倉崎砲台跡

田倉崎

飽等の浜

大崎(二説)

行者堂

見晴らしの丘

鉢巻山

観音堂

行者堂

市立少年自然の家

磯の浦海水浴場

磯の浦公園

磯ノ浦

二里ヶ浜

射箭頭八幡神社

河西公園

河西緩衝緑地

八幡前

西ノ庄

南海加太線

河西公園

河西緩衝緑地

二里ヶ浜

つつしが丘中央公園

つつしが丘

宮舞山

木本八幡宮

木本八幡宮宮原

和歌山看護専門学校

北高西校舎

八幡小

西脇中

西脇小

和歌山労災病院

木本小

和歌山

警察学校

河西中

中松江

加太春日神社

天道根命の頓宮に始まり、鎌倉末に春日大神を祀ったという。加太の産土神。重要文化財の社殿は和歌山城代薬山重治寄進。5月の海老祭りは見ごたえがある。

木本八幡宮

応神天皇の頓宮に始まるという。県指定文化財の社殿は敷幡山にあり藤の宮原権殿で1月20日の祭礼日に木ノ本獅子舞(県指定文化財)が奉納される。

行者堂

葛城修験28宿の始まりの地。5ヶ所の行場がある友ヶ島を望む阿字ヶ峰に建つ。聖護院等の修験者は迎之坊、加太春日神社を訪れ行者堂に参る。

出発

八幡前

河西中

中松江

加太浦八景を訪ねる

交通の要衝 加太

紀伊南海道の西端、淡路国への渡津の地には賀太駅家が置かれました。駅家の位置は明確ではないが奈良時代土器の散布をみる南海電鉄加太駅周辺とみられ、湊は泊谷、友ヶ島汽船の船着場あたりと考えられています。



城ヶ崎歌碑

平安時代以降は葛城修験序品行場の拠点として多くの修験者が訪れました。その拠点であった伽陀寺は秀吉の紀州攻め等で退転するが、その後も本山派等の修験者によって行場の整備が進められ、迎之坊は行者を接待する施設として、加太春日神社は修験者の安全祈願の社として重要な役割を果



迎之坊

たしました。友ヶ島汽船が通る中ノ瀬戸に臨み役行者像を山頂に祀る虎島の一枚岩には友ヶ島5行場、観念窟、序品窟、關伽井、深蛇池、剣池の名が刻まれています。

江戸時代中期以降、全国をめぐった淡島願人等により淡島信仰が広がり淡島参詣がふえ、かつての南海道は淡島街道とも呼ばれるようになり消防署横、加太春日神社横などに道標が整備されました。



道標

大阪湾への重要な航路であった紀淡海峡には、幕末期、外国船の脅威に対処すべく加太、友ヶ島をはじめとする紀州沿岸に台場や狼煙場が設けられました。明治5年(1872)友ヶ島灯台が設けられたが、大阪湾防備のため紀淡海峡には由良要塞が整備されました。加太にも加太砲台、深山第1、第2砲台、田倉崎砲台などが設けられました。

なお、県指定天然記念物常行寺の柏楨や国登録文化財旧加太警察署などほかにも見るべきものが多くあります。



常行寺の柏楨



鮑等の浜・大崎



形見の浦

加太と万葉集

紀伊国における南海道の西の終着点は加太でした。万葉びとはこの地において、憧れの海!を見ます。四方に海のない世界に住む、大和の万葉びとにとって、海は未知の世界でした。

藻刈り舟 沖漕ぎ来らし 妹が島
かたみ たづかけ
形見の浦に 鶴翔る見ゆ

妹が島は「友ヶ島」のことと考えられます。形見の浦は所在が分かりませんが、歌の表現からすれば友ヶ

島内のどこかの浦を言ったのでしょうか。「形」が「渦」を意味するとすれば、現在の加太(渦)とも強く関わっているでしょう。

沖合から近づいてくる舟を警戒して、鶴は友ヶ島の上を大きくゆったりと旋回しています。岸边に立つ作者は、鶴の動きをみて、藻刈り舟が島に近づいていることを想っているのです。広々とした海と空と島と鶴と、大和からの旅人には見飽きることのない眺めでした。

きのくに あくら
紀伊国の 鮑等の浜の 忘れ貝

私は忘れじ 年は経ぬとも

鮑等の浜は、淡島神社から南へ1キロほどの田倉崎のことだと考えられています。「忘れ貝」は二枚貝の片方が離れてしまった貝で、恋のせつなさを忘れさせてくれる貝でした。でも一途な恋心の前には無力な貝殻に過ぎませんでした。